2008年9月18日発行（NO．30）　　介護ウェーブ推進本部

STOP！介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース
－介護ウェーブの"Big Wave"をおこそう！－

9.26国会行動まであと8日！　署名254，014筆
－国会議員に事業所・介護職員・利用者の実情を知らせよう－

介護改善を求める介護ウェーブ集会を開催！（福井民医連）
福祉関係者・市介護保険課が参加し、介護の実態を共感し交流する！

９月１３日（土）福井市中心部にある県教育センターで参加者約８０名の福祉関係者が集まり「介護改善を求める　介護ウェーブ集会」を開催しました。まず福井民医連の奥出事務局長より介護ウェーブ集会・介護改善運動への力強い開会のあいさつから始まり、記念講演へと移りました。記念講演では、やすらぎ福祉の会（石川）の国光専務理事を講師にお招きして「介護保険制度の問題点と改善に向けての課題」について、金沢市の介護状況を踏まえながら、今の介護問題や今後の介護改善に向けての課題などが示されました。講演最後に「ひとりひとりの力を結集して、今こそ介護運動をさざ波から大きなウェーブへ」との訴えがあり、参加者からは「共感できることが沢山聞けて良かった」「今後の介護運動に向けてとてもためになる講演だった」「介護の仕事がんばろうって思った」などの感想があり元気の出る講演内容でした。

講演後には福井市介護保険課の担当者から、市の第３期介護事業計画の現状の報告を受けました。報告後はそのまま参加してもらい、「行政に介護の思いよとどけ」を胸に秘め、シンポジウムがスタートしました。シンポジウムでは、福祉用具貸与事業所所長・施設介護職員・ヘルパー・ケアマネジャーの４人のシンポジストから介護現場での生の声が熱く語られ「社会保障の充実を！」「この運動に賛同します！」「未来の介護のためにも介護職の労働改善を！」「誰のための介護保険なのか！」などの報告があり、心に響くものがありました。それを受けた会場の参加者からも「是非みんなで力を合わせて運動を大きくするべき！」「介護に要介護などとランク付けがあるのはおかしい！」「いま妻の介護に関わってこの苦しみを共感して欲しい！」など、介護改善への思いや願いが多数発言されました。その熱気が冷めやらぬ中、県連介護委員長岩倉氏より「集会アピール」が会場に響く大きな声で熱く訴えられ、会場からは共感を呼び大きな拍手喝采のもとアピールが承認されました。最後には閉会あいさつで寿の会の松原副理事長より現場から介護運動を広げてくことが確認され、無事集会が終了しました。

市の健康福祉センター、県の福祉大学などの行政関係者も参加

今回は集会前日には朝日新聞、翌日には福井新聞に集会の記事が載り地域から注目される介護集会となりました。また、地域参加者の中には地域包括支援センター、市の健康福祉センター、県の福祉大学の方など行政関係者の参加が見られました。このことは過去の集会では見られなかったことです。その参加者の方からは「仲間と共にこの声を増やして広げていき、力を合わせ介護改善を実現していくべき。（地域高齢者団体の方より）」「国の官僚の方にこの状況をわかってもらうよう、声を大きくし国会で取り上げられる世論作りが大事。このウェーブが大きくなることを祈ります。（地域某大学の先生より）」「介護現場の実態を聞き、いろんな問題点や課題を直接聞け改めて認識を深めました。個人的に介護事業のおかしなところ直すべき方向性が見え参考になりました。（介護保険課より）」などの貴重なご意見・感想を頂いております。　（老健あじさい 佐野誠事務長より）

★事例ファイル episode no.23

「車いす使用ではグループホームに入所できず、入所先を探している認知症の方の事例」

○性別：女性　○年齢：84 歳　○家族構成：独居　○要介護度：要介護４
○現在利用している介護サービス：回復期リハビリ病棟に入院中

【介護サービスの具体的な利用状況について】

もともと M 市で独居であったが、4 年ほど前から認知症の症状が出始め、F グループホームに入居。しかし、今年 4 月に転倒し市内の A 病院に入院し、球関節を骨折していたので固定手術を受けました。A 病院は急性期病院であったため、ほどなくして同市内の S 病院回復期リハビリ病棟に入院し、リハビリをしながら生活していらっしゃいます。しかし、S 病院には 3 ヶ月で退院を迫られています。もとの F グループホームに再入所を申し込みましたが、車椅子の方は受け入れられないと断られたようです。5 月に当老人保健施設に入所申込に見えました。現在入所検討中です。

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

認知症でほとんどの会話が成り立ちません。ご本人は結婚されていないので、キーパーソンは姪（本人姉の娘）です。F グループホームに入所する前に独居していた家は引き払っているため、他の長期入所可能な施設が無い場合、姪の家で引き取るしかありません。しかし、姪の家には 90 歳の本人姉がおり、徘徊などの危険行為があるため見守り必要です。このままでは姪の介護負担が大きくなるためなんとか施設に入所させたいとのことです。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

やはり回復期リハビリ病床や、介護療養型などに入院しても、十分に回復が出来ないまま退院を迫られ、介護負担が増える、次の入所施設が見つからないといった状況になっています。現在、長期の療養入院が可能な病床は行政から冷遇されていく傾向にあり、患者の追い出しも病院側からすれば苦渋の決断といえます。また、老健の医療体制もスタッフの人件費や低すぎる介護報酬の影響もあり、実際には限界があります。医療措置の必要な高齢者にも安心して生活できる医療・介護の制度整備をお願いしたいと思います。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで
TEL　03-5842-6451　／　FAX　03-5842-6460　／　E-mail　min-kaigo@min-iren.gr.jp